

横浜市救急医療センター患者誤認防止マニュアル

横浜市救急医療センターは、市民が安心して医療を受けられる環境を整え、良質な初期救急医療を提供することを通じて、社会に貢献することを目的としている。

この目的を達成する為、すべての職員が医療安全に対する意識を高め、事故を未然に回避する個人の能力と組織のシステムを確立することが必要である。

患者さんの取り違えを防ぐため、ここに横浜市救急医療センター患者誤認防止マニュアルを定める。

受付

- ① 受付時、診療申込書を提出された際には、患者さん本人もしくは付添の方に対して診療申込書を元に氏名を確認する。
- ② 会計時は、患者さんを受付番号と氏名でお呼びし、カルテ・保険証の付き合せ確認を行う。更に、パソコン画面に表示されている情報が患者さん本人のもので間違いがないかを確認し、会計を行う。

診察室

- ① 問診の際には、カルテと診療申込書を照らし合わせ、氏名・生年月日・住所等に相違が無いか確認し問診を開始する。
- ② 診察室へ患者さんをお呼び入れる際には、医師へフルネームで名前を名乗って戴き、カルテの氏名と相違ないことを確認する。
- ③ 診察終了後、患者さんに処方箋を含むファイルを手渡す際は、本人にフルネームで名前を名乗って戴き、ファイルの氏名と当該患者さんが整合していることを確認する。

検査室

- ① 検査室に提出するインフルエンザ抗体検査等のぬぐい液検体は、容器の外側と検査伝票（氏名記載がある）の上部余白に受付番号を記載する。
- ② トレイを使用し、複数の検体が混ざらないようにする。
- ③ 心電図・超音波検査の際は、ID番号・性別・年齢を入力し、施行前に再度本人確認を行う。
- ④ 尿検査用コップに氏名を記載し、検査伝票名と整合しているか確認する。
- ⑤ 検査結果報告書が届いたらID番号・カルテの名前・検査伝票名を確認する。

処置室・観察室

- ① 点滴・注射・与薬の際には、医師・看護師間で薬剤の確認を行い、施行前、患者さんにフルネームで名前を名乗って戴き、カルテと照合し実施する。

他部署へ引き継ぐ時の確認方法

- ① 他科併診となった場合には、受付に受付番号と患者さんのフルネームを伝え、併診受付を依頼し、併診となった科へ情報を引き継ぐ。

薬局

- ① 薬剤が処方されている患者さんに対しては、会計時に受付番号を回収せずに持っていき、薬剤の準備ができたなら受付番号と氏名で呼び出し、処方箋・薬情・薬袋の氏名とID番号を確認して渡す。

その他

- ① 同姓同名カルテの確認方法
同姓同名の患者さんが同じ診療科を受診していることがわかった場合、診療申込書余白に「同姓同名あり」と記載し、診察室に呼び入れる際、ID番号・生年月日・住所等で確認を行う。

令和元年11月5日